

大矢和憲の社会科（第5学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

社会科は、将来の主権者を育てる教科である。高度情報化、グローバル化、高齢化等、社会においては多種多様な問題が生じている。このような時代を生きる子どもに、主体的に持続可能な社会の実現にかかわったり、社会の問題をよりよく解決したりすることができる資質・能力を育成することが一層求められる。これらの資質・能力の育成を目標に、私は5学年の社会科において、**社会の諸問題と生活の事実を関連付け、事象にかかわる考えを深める子ども**を目指す。具体的には、社会に見られる諸問題と生活の事実を関連付けて、社会の一員としてこれから自分が社会的事象（※以下：事象）にどのようにかかわるのかを考える子どもの姿である。

5学年では、主に我が国の産業について学習する。これまでも産業における今日的な問題を取り上げ、持続可能な社会の実現に向けて解決策を考えさせる授業が行われてきた。しかし、国家の産業における問題であるがゆえ、解決策は他人事になりがちになる。典型的な例が、「日本の農業を持続させていくために、若い後継者を増やせばいい」などである。「こうすればいい」と考えるものの、諸問題の解決に向けて自分が事象にどのようにかかわるのかまでは考えていないのである。

この原因は、社会の諸問題について子どもに直接考えさせていたことにある。実社会は子どもにとって空間的に広い。だから子どもは、社会の諸問題の解決に向けて自分が事象にどのようにかかわることができるのか、どのようにかかわるべきか、自分事として考えることが難しいのである。

そこで私は、子どもが、自分にとって身近な空間である自分たちの生活の事実、実社会の諸問題を感じられるようにする。社会の諸問題を、自分たちの生活の問題としてとらえさせるのである。そして、子どもが社会の諸問題と自分たちの生活の事実を関連付けて、社会の一員として問題の解決について考えられるようにしていく。

具体的には、まず、子どもが、自分たちの生活の事実の中に、実社会の諸問題を感じられるように働き掛ける。次に、子どもが、問題を解決するためにどうしたらいいか話し合ったり、問題を改善するための活動に取り組んだりすることができるように働き掛ける。最後に、子どもが話し合ったことや活動したことを基に、問題に対する自分の考えを再構成できるように働き掛ける。

このように授業を展開することを通して、目指す姿を具現していく。

また、本研究では、子どもが自分たちの生活の事実に対して問題意識をもち、社会の諸問題の解決に向けて自分たちの生活を見直そうとする姿が期待できる。そこで、主に家庭科や食育等で育成する資質・能力との関連を見だし、教科横断的に資質・能力を育成することを視野に入れて単元開発を行っていく。

2 本研究で育成する資質・能力

| ①知識・技能 | ②思考力・判断力・表現力 | ③態度 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○事象に関する諸問題の知識 ○基礎的資料を効果的に活用する技能 | <ul style="list-style-type: none"> ○社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に社会へのかかわり方を選択・判断する力 ○根拠や理由を明確にして、事象についての自分の考えを論理的に説明する力 ○他者の主張につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、事象についての自分の考えを主張する力 | <ul style="list-style-type: none"> ○社会の一員として、持続可能な社会の実現に向けて、よりよく課題解決しようとする態度 |

3 主張する働き掛け

子どもはこれまでに、単元で取り上げた分野における社会の諸問題について学習している。しかし、これらの諸問題の解決に向けて、自分が事象にどのようにかかわるのかまでは考えていない（C0）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

事象に関する子どもの生活の事実（実態調査の結果）が分かる資料を提示し、問題と感ずる理由とこれから考えたいことを問う。

自分たちの生活の事実に対して、社会の諸問題を関連付けた問いをもたせ、学習問題を設定させるための働き掛けである。

まず、事象に関する子どもの生活の事実が分かる資料を提示する。社会の諸問題について学習している子どもは、自分たちの生活の事実に対して問題意識をもつ。ここで、子どもに問題と感ずる理由を問う。子どもは社会の諸問題についての知識を発揮し、社会の諸問題と自分たちの生活の事実を関連付けた問いをもつ。

このような子どもに、これからみんなで考えたいことを問う。子どもは「改善（または解決）するためにはどうしたらいいだろうか」などと、学習問題を設定する。

働き掛け2

学習問題を解決するためにどのようなことを考えていけばいいのかと、その理由を問う。

学習問題について調べたり考えたりしていくための視点を設定させ、様々な資質・能力を發揮して学習する見通しをもたせるための働き掛けである。

学習問題を解決するために、どのようなことを考えていけばよいのか問う。子どもは、社会の諸問題の解決に向けて必要なことや、考える必要があること、足りない情報などを挙げる。これらを板書で可視化することで、調べたり考えたりしていくための視点が共有される。

また、このとき、そのように考える理由を問うことで、子どもは学習問題を解決するために發揮する資質・能力や、働かせる社会的な見方・考え方の見通しをもつ。

働き掛け3

ツールを与え、小グループで提案を考えさせる。

子どもが様々な資質・能力を發揮し、学習問題を解決できるようにするための働き掛けである。この場面では、子どもがツール活用能力や協働性を發揮して、学習問題についてよりよく思考・判断・表現していくことができるようにする。そのために、子どもにロイロノート（※タブレット端末のアプリケーション）やコア・マトリクスを与え、小グループで提案を考えさせる。ロイロノートやコア・マトリクスは、必然的に関連付けや総合する思考が促されるツールだからである。

子どもは、ロイロノートやコア・マトリクスを使い（⑤**ツール活用能力**）、グループとしての提案を考えていく（④**協働性**）。その中で、社会の諸問題の解決につながるようにと（③**態度**）、**社会的な見方・考え方**を働かせながら、社会の諸問題と生活の事実に関する①**知識・技能**を發揮し、事象へのかかわり方を話し合っ提案をまとめていく（②**思考力・判断力・表現力**）。また、学習問題が教科横断的な要素を含んでいることから、この場面で子どもは、社会科の資質・能力だけでなく、国語を始め、他教科等の資質・能力も發揮する。

働き掛け4

ワールドカフェ形式で、各グループの提案について説明させ、メリットとデメリットを交流させる。

具体的・現実的に事象へのかかわり方を考えることができるようにするための働き掛けである。

ワールドカフェ形式で交流させることで、国語「話すこと・聞くこと」の資質・能力を發揮しやすくなる。また、このとき、別グループの子どもに提案のよい点と問題点を指摘するように指示する。子どもは、提案が社会の諸問題の解決につながるのかと（③**態度**）、**社会的な見方・考え方**を働かせながら、社会の諸問題と生活の事実に関する①**知識・技能**を發揮し、事象へのかかわり方を相互評価していく（②**思考力・判断力・表現力**）。一方で、提案したグループの子どもは、自分たちの提案の有効性や難しさを感じることができる。

働き掛け5

学習を通して分かったこと・考えたこと・思ったことと、「考え方のコツ」を問う。

社会の一員として、これから自分が事象にどのようにかかわっていくのか考えることができるようにするため。また、發揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

これまでグループで学習問題について考えてきた子どもにも、学習を通して分かったこと・考えたこと・思ったことを問い、説明させる。子どもは、**社会的な見方・考え方**を働かせながら、社会の諸問題と生活の事実に関する①**知識・技能**を發揮し、事象に関する情報を再構成しながら（②**思考力・判断力・表現力**）、社会の諸問題の解決に向けてこれから自分が事象にどのようにかかわっていくのか考える（**態度**）。こうして**社会の諸問題と生活の事実を関連付け、事象にかかわる考えを深める子ども**（Cn）になる。

また、このとき「考え方のコツ」を同時に記述させることで、子どもは自分の学習を振り返り、自分が發揮した資質・能力とその結果どのようにできたのかを自覚する。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した見方・考え方を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を發揮することができたか。
- ④ 子どもは發揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5を受けて、社会の諸問題と生活の事実を関連付け、自分が事象にどのようにかかわっていくのか記述しているかどうかを、ワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け3、4、5を受けて、社会的な見方・考え方を働かせているかどうかを、発言や活動の様子、考えを表現しているツールから検証する。
- ③ 働き掛け3・4・5を受けて、想定した資質・能力を發揮しているかどうかを、発言や活動の様子、考えを表現しているツールから検証する。
- ④ 働き掛け5を受けて、發揮した資質・能力を自覚したかどうかを、ワークシートの「考え方のコツ」の記述から検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (7月) 「賛成？ 反対？ 給食完全米飯化」(社会・国語・家庭・食育8時間)
- (2) 中間検討会 (9月) 「どうする？ 食料生産とわたしたちの食生活」(社会・国語・家庭・食育14時間)
- (3) 初等教育研究会 (2月) 「STOP！ 地球温暖化」(社会・国語・家庭・環境教育12時間)